

# CASBEE®名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築環境総合性能評価システム2016 使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)エスリード 新栄三丁目	階数	地上15階
建設地	名古屋市千種区新栄三丁目2001番3	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域(路線防火)	平均居住人員	275 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年8月 予定	評価の実施日	2021年1月15日
敷地面積	1,400 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	691 m <sup>2</sup>	確認日	2021年1月15日
延床面積	8,737 m <sup>2</sup>	確認者	

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**= BEE0.6** ★★★★★

★: S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆ 100%超 ☆☆☆ 100% ☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 60% 30%

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	100%
③上記+②以外の	100%
④上記+	100%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.4

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

音環境	3.3
温熱環境	2.4
光・視環境	2.5
空気質環境	3.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.3

機能性	1.7
耐用性	2.7
対応性	2.8

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.8

生物環境	1.0
まちなみ	2.0
地域性・	2.5

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 2.6

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.7

建物外皮の	1.0
自然エネ	2.0
設備システ	3.4
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.6

水資源	3.4
非再生材料の	2.4
汚染物質	2.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.6

地球温暖化	3.0
地域環境	2.5
周辺環境	2.4

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
周辺環境に調和するように計画し、室内環境の快適性に配慮した。		
<b>Q1 室内環境</b> 24時間換気を採用し、シックハウス対策を講じました。	<b>Q2 サービス性能</b> 維持管理に配慮した仕上げ材を採用した。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 街並みに調和するように、外壁等の素材・色を決定しました。
<b>LR1 エネルギー</b> 潜熱回収型ガス瞬間給湯器を採用しました。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節湯型水栓を採用しました。	<b>LR3 敷地外環境</b> 駐輪場を全戸数、駐車場を30%確保。緑地面積を10%以上確保しました。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

### 重点項目スコア・結果シート

(仮称)エスリード 新栄三丁目

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				2.7
LR1	エネルギー	2.7	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				2.7
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

### 結果

#### 1. 温暖化対策

評価点 = 2.7



#### 2. 自然共生

評価点 = 1.3



#### 3. 循環型社会

評価点 = 2.7



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。